

デ格デキゴト名詞による時間表現

——デ格の意識・逐語訳ダブル対訳コーパス¹——

加 藤 鉦 三

Sean Collin Mehmet

キーワード： デ格， デキゴト名詞， 英語の前置詞

1. プロジェクトの概要

本論は、科学研究費補助金による研究課題「演繹的分析法と意識・逐語訳ダブル対訳コーパスによる助詞デの英訳のしかたの研究²」で作成中のデータベースを使った研究であり、そこで得られたデータをもとに、日本語と英語を分析したものである。この研究課題の概要は(1)の通りである。

(1) 研究課題の概要

【目的】 本研究の目的は次の2点である。(1)日本語の助詞デを英語にどう訳すのかを、文の動作とデ格名詞を意味的に分類することで機械的に翻訳できるよう分析する。(2)その分析の元となる日本語文（新聞社説）とその英訳を収集し、分類し、それを分析編と意識・逐語訳ダブル対訳コーパス編の2部からなる『デの訳し方辞典』として報告書にまとめる。

【意義・特徴】 新聞社説の英語訳は逐語訳ではない場合の方がはるかに多いため、英語母語話者が逐語訳を用意し、意識と逐語訳を並べたダブル対訳コーパスを構築する。これにより、英語教員や翻訳者が自信を持って仕事ができるようになり、また生徒・学生が英作文をする時の強力なサポートとなる。さらに、前置詞に関しては、機械翻訳の大幅な精度向上が期待できる。

本研究課題の動機は次の通りである。

A：英語は前置詞が豊富にある

B：日本語の後置詞は次の二種類

①意味があるもの： カラ， マデ， へ， ト

②意味がないもの： ニ 「第三の格」という機能しかない

デ 「副詞マーカ」という機能しかない

A と B から、カラ、マデ、へ、ト（と一部のニ）以外の副詞的關係は全てデで表示されることになる。だから、カラ、マデ、へ、トは前置詞とほぼ一対一対応であるが、デは一対多対応であるため、デ格を英訳する時、どの前置詞を当てるかをいちいち考えなければならない。その負担を軽減するためのコーパスを作る。なお、助詞デについての上記の見方については加藤(2007)を参照されたい。

2. デキゴト名詞³による時間表現

デは時間を表す名詞と共起する。例えば、(2)は『ウィズダム和英辞典』の「②時」にあげられている全ての例文のデ格であるが、(2)に見るように、全ての例文で名詞が時間そのものである。

(2) 8 時で、74 歳で、1 時間で、今度の 4 月で、たった 1 週間で、ここ 10 年間で

しかしデ格が時間を表す事例は、(2)のような時間を表す名詞以外でも見られる。本プロジェクトのデータ（構築中）のうち、デ格が(2)のように時間表現そのものである事例ももちろんあるが、(3)から(5)のように、デが時間を表す名詞を伴わないにも関わらず、事実上時間を指しているという事例が少なからずある。それらに共通するのは、デ格名詞がデキゴトを表すものであるという点である。これらのデはいずれも「～の時に」と言い換えることができる⁴。

(3) at で訳される事例

2016_4_12 甘利氏は 1 月の辞任時の記者会見で、弁護士らによる事実関係の調査を継続したうえ、その結果について「しかるべきタイミングで公表する」と明言していた。

At a January press conference where Amari announced his resignation as a state minister, he pledged he would have lawyers and others investigate all the facts and would “make public at an appropriate time” the findings of the investigation.

2016_5_11 今月の主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）でも、課税対策は重要な議題になる。

At the Ise-Shima summit meeting of the Group of Seven major powers this month, taxation measures are a major item on the agenda.

(4) in で訳される事例

2016_6_3 首相は、消費増税延期が「公約違反」との批判を受け入れ、「新しい判断」について参院選で「国民の信を問う」と強調した。

Acknowledging criticism after breaking a campaign pledge when he postponed the consumption tax hike, Abe has emphasized that he would “seek the people’s mandate”

on his new decision in the upper house election.

2016_6_25 欧州連合（E U）残留か離脱かを問う英国の国民投票で、離脱支持が 51・9%に達し、英国の脱退方針が決まった。

In a referendum on whether to remain in or leave the EU, the “Leave” camp secured 51.9 percent of the vote, paving the way for a Brexit.

(5) during で訳される事例

2016_4_17 ラブロフ氏は来日前、一部メディアに対し、1956年の日ソ共同宣言について「平和条約交渉で領土問題を検討するとは書かれていない」などと主張した。

In an interview with certain media ahead of his visit to Japan, Lavrov said the 1956 Japan-Soviet Joint Declaration does not say that the territorial dispute will be discussed during negotiations on the envisioned peace treaty.

2016_4_17 ウクライナ情勢を巡ってロシアと対立するオバマ米大統領は、2月の首相との電話会談で、首相の訪露に懸念を伝え、延期を求めた。

U.S. President Barack Obama has confronted Putin over the Ukrainian conflict. Obama expressed concern over Abe’s envisaged Sochi visit during a telephone discussion in February, asking him to postpone it.

これらの事例では、日本語ではいずれも「デキゴト名詞+デ」という表現であるが、そのデキゴト動詞の意味内容によって、英訳では at, in, during と訳し分けられている。では、デキゴト名詞+デの訳し分けはどのように行われるのであろうか。

3. デキゴト名詞+デの訳し分け

デキゴト名詞による時間表現については、『ウィズダム英和辞典』の at の項で

(a) [時の1点]《時刻・時点》に、…から、《出来事》の時[際]に、
…する[した]時に

とデキゴトに言及があり、「～at the graduation 卒業式の時に」というデキゴト名詞を使った例文をあげている。しかし次のように、(3)から(5)の全てにおいて、デは「～の時に」と言い換えられる。

(6) (3)～(5)のデ格の言い換え可能性

(3) 記者会見で → ○記者会見の時に

伊勢志摩サミットで → 伊勢志摩サミットの時に

(4) 参院選で → ○参院選の時に

国民投票で → ○国民投票の時に

- (5) 平和条約交渉で → ○平和条約交渉の時に
電話会議で → ○電話会談の時に

そのため、「～の時に、～する時に」での言い換えは、デキゴト名詞をどう訳すかの基準としては使えない。なお、例えば『ジーニアス英和辞典』の **at** ではデキゴト名詞の言及はない。

(3)から(5)で言えば、**at** と **in** と **during** がどういう場合に使えるかは、それぞれの前置詞の意味内容から、次のように、ある程度予測可能である。

(7) (3)から(5)の前置詞選択基準 (仮)

at は「点」であるため、デキゴトが時点として捉えられる時に使われる

in は「中」であるため、デキゴトが入れ物として見られる時に使われる

during は「期間」であるため、デキゴトが期間として捉えられる時に使われる

(3)では記者会見やサミットというデキゴトが「機会」という時点で捉えられており、(4)では選挙や投票というデキゴトの「中」で行われ、(5)では会談や交渉を「している間に」行われているという理由でこれらの前置詞が選択されているということは、一応は言える。しかし、(4)の選挙や投票ももちろん「選挙・投票という時点で、選挙・投票という機会に」と言えるため、(7)のままでは(4)では **in** ではなく **at** が使われていてもいいことになり、そのため(7)は選択基準にはならない。そこで(7)を(8)のように改訂する。

(8) (3)から(5)の前置詞選択基準

(a) デキゴト名詞を【期間】として見るなら **during** を使え

(b) デキゴト名詞を【デキゴト】として見るなら、

(b1) デキゴトを、範囲のあるものとして見るなら **in** を使え

(b2) デキゴトを、その内部を見ずに単体のイベントとして見る
なら **at** を使え

次の例のように、同じ「東京オリンピックで」であっても、**at** と **in** の両方が可能であるような場合もある。

(9) For many years, he dreamed of winning a gold medal in karate {○at /○in} the Tokyo Olympic Games.

オリンピックは、オリンピック全体を見ればある程度長く続くデキゴトである。一方、空手の一連の試合だけを単体のイベントとしてイメージすることもできる。そのため、(9)においては、(8)の(b1)と(b2)のいずれもが可能であると言える。実際に、(9)では **at** と **in** の両方が可能である。(10)においても、フェスティバル全体を一つの単体イベン

トて見ているなら at, フェスティバルを流れのあるものとして見て, 「その中で」と捉えているなら in を選択していると見ることができる。この at と in の違いは(11)で見ると分かりやすい。よく知られているように, in を使っている(11b)では, 東京を広がりのある範囲として捉えているが, at を使っている(11a)では, 東京全体を一つの地点として捉えており, 東京の内部・細部には関心はない。一方, オリンピックやフェスティバルと違って, 毎週の授業は単体のイベントとしてみることはできない。そのため, (12)に見るように, 単体イベント用の(b2)が適用されることはない。しかし, 毎週の授業は, その中で流れのある範囲としては見ることができる

(10) He sang a very old song of his own {○at /○in} the festival.

(11) a. He arrived at Tokyo.

b. He arrived in Tokyo.

(12) He learned English {×at /○in} my *English For Overseas Students* class.

ところで, 『ウィズダム英和辞典』の during の「類義 during と for, in」の項にある次の記述は非常に興味深い。

during も **in** もある事が「特定の期間中に」起きる・行われることを表すが, party, meeting など「出来事・行為」を表す語の場合には通例 during が用いられる

▷The couple first met *during* [×in] the tour. ふたりはその旅行で初めて出会った。

ここで「出来事・行為」を表す語としてあげられている party と meeting は, 実はデキゴト名詞で at を使う際, 最も安全に使うことができるものである。しかし, 次のように, in を使うことはできない。

(12) He first met his wife {○at /×in} the party.

(13) I first ate *inago* {○at /×in} Kumi's barbecue party.

これは次のように説明できる。パーティのようなデキゴト名詞は, 長さを持つイベントとしても見ることができる。本論の考え方では, パーティを時間経過のあるものとして見た場合は, ここに再掲する(8)において,

(8) (3)から(5)の前置詞選択基準 (再掲)

(a) デキゴト名詞を【期間】として見るなら during を使え

(b) デキゴト名詞を【デキゴト】として見るなら,

(b1) デキゴトを, 範囲のあるものとして見るなら in を使え

(b2) デキゴトを, その内部を見ずに単体のイベントとして見る
なら at を使え

(b)項でデキゴトの種類を見る前に、パーティーを【期間】として認識していることになる。つまり、(b)項に進まずに、(a)項に進んだということである。だからそのような場合には **during** を使う。しかしパーティーの時間経過を問題にするのではなく、【デキゴト】として見た場合、パーティーは比較的短いイベントであるため、内部を問題にする(b1)、つまり **in** ではなく、内部を見ずに単体イベントして見る(b2)、つまり **at** を選択していると言える。

デキゴトを、その内部を問題にせず、全体として一つのイベントとして見ている時に **at** を使うという本論での見方は、次の事例の説明においても有効である。試合というデキゴトは、(14)のように文脈を与えなければ、**at** と **in** の両方を許容する。しかし大会の中の一つの試合という文脈を与えると、(15)(16)のように、前置詞の許容性に違いが出る。

(14) He first beat his rival {○at /○in} the match.

(15) When/where did Nishikori Kei first beat his opponent?

a. ◎At the 2016 Australian Open tennis competition.

b. ○In the 2016 Australian Open tennis competition.

(16) When/where did Nishikori Kei first beat his opponent?

a. ×At the third match of the 2016 Australian Open tennis competition.

b. ◎In the third match of the 2016 Australian Open tennis competition.

(15)では、大会全体を単体イベントとして捉えることができるので、**at** が選択できる。しかし大会は大きい時間幅を持つので、範囲として捉えることもでき、そうする場合には **in** が選択される。一方、(16)のように試合を明示的に大会（＝それ自身が単体イベント）の中に位置づけると、その試合自体は単体のイベントとして捉えることは難しくなり、その結果、**at** は許容されなくなる。一方 **in** については、大会の中の試合として位置づけられているかどうかに関係なく「その試合の中で」と範囲を問題にできるため、**in** が許容されると考えられる。

また次の対比も(8)の選択基準のサポートになる。(5)で使われている「交渉」、「会談」を、次のように「会議」、「会見」と比べてみると興味深い示唆が得られる。「交渉」「会談」は「交渉する」「会談する」と普通に言えるように、サ変名詞であり動作名詞である。一方、「会見する」は「記者会見する」という複合表現以外では、単体の「会見」ではサ変動詞として使えない。また「会議する」は言えない。このことから、「会議」「会見」は「交渉」「会談」に比べてより動作性が低く、従って行為の名称というより、イベントの名称である度合いが強い。そして、「交渉」「会談」では **at** は使えないが、「会議」「会見」では **at** が好まれる。これは、単体イベントでは **at** を使うという(8b2)の予測の通りである。

- (17) 「交渉」, 「会談」 vs. 「会議」, 「会見」
より動作名的 よりイベント名的
×at ○at

4. まとめ

デ格デキゴト名詞を時間表現で使う場合、英語に訳す時にどの前置詞が使われるかについてはまとまった研究はなさそうであり、辞書類での言及も乏しい。本論では、デキゴトを期間として見る時には *during* を使い、期間として見ない時には、(b1)デキゴトの内部を問題にするなら *in* を使い、(b2) 内部を見ず単体のイベントとして見るなら *at* を使う、という前置詞判断基準を提案した。

注

¹ 本論は、言語処理学会第24回年次大会（2018年3月13日、岡山コンベンションセンター）での口頭発表を加筆修正したものである。

² 2016年採択課題，研究課題/領域番号16K02917。研究代表者は加藤鉦三，研究分担者は花崎一夫と Sean Collin Mehmet である。

³ 影山(2011)，第2章の用語。そこではデキゴト名詞の代表例として「会議，運動会，オリンピック，試合，コンサート，事故，地震，爆発」があげられている(p.40)。

⁴ 以下，日付で始まる日本語文と英文のペアは，全てその日付のウェブ版読売新聞の社説とその英訳版であるウェブ版 The Japan News の社説から抜き出したものである。

引用文献

1. 影山太郎編，2011，『日英対照 名詞の意味と構文』，東京，大修館書店。
2. 加藤鉦三 (2007)「デには『意味』がない」，影山太郎（編）『レキシコンフォーラム』No.3，東京，ひつじ書房，229-314

使用辞書

1. 『ジーニアス英和辞典』第5版，東京，大修館書店。
2. 『ウィズダム英和辞典』第3版，『ウィズダム和英辞典』第2版，東京，三省堂書店。

(加 藤 鉦 三 信州大学 高等教育研究センター 教授)
(Sean Collin Mehmet 松本大学 教育学部 准教授
信州大学 全学教育機構 非常勤講師)
2019年1月12日受理 2019年3月5日 採録決定